

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年7月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670105313
法人名	社会福祉法人 吉田向陽会
事業所名	グループホームむれが岡風車の宿
所在地	鹿児島市牟礼岡1丁目3番7号 (電話) 099-294-7007
自己評価作成日	令和元年6月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番4棟 3F302号
訪問調査日	令和元年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○運営推進委員のメンバーがすべて校区社協の理事・民生委員であることから地域密着が十分に図られている。
○法人の母体が保育園であることから、乳幼児との交流が随時図られ、チャイルドセラピーの効果が出ている。
○介護スタッフのほとんどが地域在住であるので、利用者と馴染みの関係ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所吉野支所から数キロ離れた閑静な住宅地に、同法人の保育所と共に設置されている。開設13年目を迎え、地域密着型サービス事業所として地域住民に周知されて、地域との協力関係や日常的な交流が密に図られる関係を構築している。保育所の園児とは日常的に親しく会話や遊びで触れ合っている。また、小学校の運動会や校区の敬老会等に参加し、園周辺の散歩時の会話や友人知人の来訪、施設見学の受け入れ等に積極的に取り組んでいる。また、法人は近くに児童クラブや地域コミュニティを設置して広く地域住民に開放している。

管理者及び職員は理念に沿って、誇りや尊厳を大切にしながら、その人らしい生きがいのある暮らしの支援に努めており、日々の活動は無理強いすることの無いように、また、心身の状況に配慮した利用者主体のケアに取り組んでいる。利用者や家族からの意見や要望に対しては、職員全体で協議してサービスの改善に努めており、信頼関係が構築されている。

利用者が楽しみにしている外出については、季節の花見や買い物、レストランでの外食、イルミネーション見学、一泊旅行等を、安全性の事前チェックや車いす対応の車の活用など工夫しながら積極的に取り組んでおり、全員が参加している。

管理者は、日頃から気軽に意見が言い合える雰囲気づくりに努め、意見や要望等を運営やサービスの質の向上に反映させており、職員間も日常的に助言を行えるなど、信頼と協力の体制が構築されている。スキルアップを図る研修の実施やケアに対する助言・指導を積極的に行い、勤務シフトや外部研修には可能な限り本人の意向を反映させるなど、職員の意欲向上及び働きやすい職場環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ごく普通の生活をその人らしく乳幼児や地域の方に囲まれて穏やかに過ごせる暮らしを実行します」の理念を目の触れやすい場所、事務所や玄関、リビングに掲示して、唱和して共有し確認している。	事業所独自の理念は介護理念、ケアポリシーと共にリビングや玄関等に掲示し、毎日唱和も行って意識付けを図っている。日々の申し送りや毎月のスタッフ会議でケアの振り返りや意見交換を行って、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事（敬老会、校区の運動会）保育園、小学校の運動会や行事にも参加し交流を行っている。散歩や外出等積極的に地域に出かけている	自治会に加入し地域の情報の把握に努め、小学校の運動会や校区の敬老会等の行事、ボランティアによる陶芸等に参加し、同法人が運営する児童クラブや地域コミュニティとも交流している。特に隣接の保育園とは自由に往来して、園児との会話や歌、遊戯等を日常的に楽しんでいる。また、散歩時には地域住民と会話し、農産物を頂くなど円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域行事等へ入居者と一緒に参加して、存在感を理解してもらい、地域の一員として交流している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議には職員、民生委員、老人クラブ会長、行政からは地域包括支援センターの職員の参加、事業所の活動の報告や委員からの評価、要望などの意見交換がされている。ケアのサービス向上のアドバイスとなっている。	会議は、民生委員や老人クラブ会長、地域包括支援センターの職員、法人理事長等が参加して定期的に開催している。ホームの現状や行事計画、活動内容の報告を行い、委員からはケアに関する質問や評価、地域の高齢者に関する情報等が出され、熱心に意見交換している。職員は内容を会議録で共有し、サービスの向上に務めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政職員とは運営推進会議や介護保険証更新申請等の書類の提出や相談事がある時に訪問し助言をもらっている。行政主催の勉強会、地区のグループホーム連絡会との交流など関わりを持ち、助言、指導を受けている。	市担当職員には、日頃から介護保険の認定や更新、各種制度の手続きや報告、ケアや施設運営に関する相談等を行い、助言・指導を受けるなど協力関係を築いている。市やグループホーム連絡会主催の会合や研修会に積極的に参加して、行政や他施設職員との情報交換に努め、業務やサービスの改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束改善計画規定」を定め行動制限のないように日頃からさり気なく見守り安全確保している。委員会を中心とした勉強会を毎月の職員会議を行っている。ホーム内の鍵は中から開けることができ見守りのケア、拘束のないケアを職員間で実践して取り組んでいる。	身体拘束については、「身体拘束改善計画規程」を定め、身体拘束廃止委員会も毎月開催して事例研修や意見交換等で共通の認識を深めている。昼間は施錠は行わず、利用者の見守りや対話、寄り添いに努めて思いを把握し、尊厳を大切にされた拘束のないケアの実践に取り組んでいる。不適切な言葉づかいやケアに対しては、職員間でも注意し合うなど、日頃から改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、馴れ合い状態での無理な言葉などの静止にならないよう、職員同士でお互いに注意し合っている。月1回開催している職員会議で職員間で状態把握と対処、対応を意見を出しあい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度の利用者が1名居られるので実際に関わりがある。司法書士にそれに対して聞いたりして学ぶ機会が多い。職員も家族の代わりに、病院の付き添い、買い物等を支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時には、重要事項を説明し了承を得た上で署名、捺印して頂き契約している。また、制度改正がある場合などは、再度説明し、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者の意見は、日々の言動から、家族からは家族会、面会時に話を聞いている。ご意見箱も設置している。毎月家族に「風車だより」を送付し、日々の様子も伝えている。</p>	<p>日頃のケアの中で利用者の想いの理解に努めており、家族からは、来訪時の対話や年2回開催の家族会、家族アンケートの実施、意見箱、毎月発行の「風車だより」等、工夫して要望等を把握している。出された意見等は申し送りやホーム日誌等で共有し、運営やサービスの向上に取り組んでおり、家族にも対応状況を報告して理解を得ている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回の職員会議で積極的に意見を求めると共に、日頃から連絡ノートや口頭での意見や報告、連絡、相談を密にするように努めている。施設長、管理者は必ず出席している。</p>	<p>管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、業務の中やスタッフ会議、個別面談等で意見や要望を把握し、必要に応じて個別の悩み等も聴取しており、出された意見や要望等は協議して改善を図っている。スキルアップを図るため施設内研修を計画的に実施し、資格取得への助言に努め、また、勤務シフトや外部研修の受講には職員のキャリアや意向を反映させるなど、意欲の向上と働きやすい職場環境の整備に努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>就業規則は整備されている。施設長、管理者は法人全体の会議に参加し、情報を共有し、向上心を持って働くことができるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加した者は、研修報告を職員会議で他のスタッフに伝達して内部研修を充実させスキルアップを図っている。また新人の職員には経験者が指導に当たっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>吉田地区介護保険事務所の連絡や介護支援専門員の交流会、グループホーム協議会に参加し、地域の情報交換や勉強会に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病院、施設、居宅の介護支援専門員からの情報だけでなく、契約前にご本人やご家族に訪問していただき、情報収集すると共に、希望や要望を聴取し、環境変化が少ないように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問、来所して頂き、ご家族様の要望を聴き、不安を解消し、信頼関係が築けるように努めている。入居後は、訪問時の家族に、個々の状態を報告し意見交換するようになっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問の際の情報を基に現時点でのご本人のベストな環境で生活できるように他のサービスを含め、情報提供するなど、共に考えるようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に生活を意識し、共に生活させて頂いている。また、スタッフだけでなく入居者同士も支えあっている。支援する側される側という意識を持たず、お互いが協働し生活している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を意識的に作るように配慮し（料金の支払い時、病院受診時）家族関係が途切れないように取り組んでいる。ご家族と意見交換、情報の共有、同じ思いで支えていけるように取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄の生活暦の把握、自宅への外出・外泊、・馴染みの美容室の活用、知人、友人の面会等、ご家族の協力を頂いている。個々の生活習慣を尊重し、継続的に交流が持てるように取り組んでいる。	利用者の生活歴や家庭環境等を把握して、馴染みに関する情報を共有している。家族や友人の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに配慮し、利用者の希望に沿って買い物や一時帰宅、外食、墓参等を家族と連携して支援している。「風車だより」にコメントを添えて利用者の近況を伝え、また、遠方の家族との手紙等の取り次ぎも行なうなど、関係の継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は見守りの中、利用者様同士の関係性、性格などを把握し、トラブル等には十分に配慮し生活を共にする。利用者様同士が自然な形で支え合い生活できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談して頂けるように取り組んでいる。退居時の状態に合わせ、どのようなサービスが必要か共に考え支援している。利用後も電話による様子伺い、施設面会、病院にお見舞い、亡くなられた場合は全職員でお通夜に行くなどしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に把握したアセスメントに加え、日頃の会話や表情等を見ながら思いの把握に努めている。入居後も大好きな歌を唄ったり、図書館より好きな本を借りて読むなど、ご本の望む生活が送れるように支援している。	利用者の思いや意向を日頃の会話や表情、仕草等で把握に努め、生きがいのある、その人らしい暮らしの支援に家族と連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者の意向に沿って趣味（読書、編み物、ぬりえ他）や家事（洗濯物たたみ、調理の手伝い、食後の片付け）への支援を、心身の状況に配慮しながら個別に行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握し、又、これまでのサービス状況等、ご家族を含め、関係者から情報収集、何気ない会話から情報収集し、職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に身体状況や認知症等把握に努め、小さな動きからも感じ取り、本人の全体像を把握し職員全員で情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一連のプロセスを経て、日々の情報や気づき等を取り入れて作成している。6ヶ月ごとにモニタリング実施、毎月の職員会議ではご本人には何が必要なのか状態に変化が見られたら現状に適した計画を作り直している。	本人・家族の意向や主治医の意見、モニタリング等を基に残存機能に配慮した利用者主体の介護計画を作成している。ケアの実施状況は「ホーム日誌」「健康チェック表」「ケース記録」等に詳細に記録して共有を図っている。定期的な見直しに加え、心身の状況の変動時には計画を修正する等、実状に即した計画となるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の身体状況や認知症の状況把握し情報を共有している。本人の言動やそれに対する職員の対応を個別に記録して、朝夕の申し送りで活用してカンファレンスや介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1回程度の行事の実施や車で外出、また個別の要望にもできる限り応じるなど、グループホームだからこその支援の充実に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加など積極的に取り入れ、閉ざされた空間での生活にならないようにしている。保育園交流（夏祭り、運動会、ソーメン流し、鬼火炊き）に参加して幼い子供達とのふれあいを楽しむ。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、基本的に家族に依頼しているが、遠方等で難しい場合は職員が対応している。月に2回協力医療機関に訪問診療や看護師による様子観察など受け、日々の健康管理ができています。	各利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を家族と連携して支援しており、月2回協力医療機関の訪問診療と週一回の訪問看護が実施されている。日頃から健康管理を徹底し、協力医療機関との医療連携の体制も契約書に基づいて構築されて、利用者及び家族の安心に繋がっている。	け

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携にて訪問看護を週1回受けている。急変時にもすぐに連絡できる体制ができている。また、同法人の看護師が月2回訪問している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時には情報提供を行い、医療機関と情報を共有している。入院中、職員、管理者が訪問したり、家族が近くに居られずどうしても術後の付き添いが必要な場合は職員がしたり、退院を含め、今後の方向性について話し合っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に「ターミナルケア指針」を説明し、同意書に署名をもらっている。状態に重度化が見られた場合、再度家族や本人の思いを確認している。協力医院による往診、訪問看護もあるため、事業所で最後を希望された場合看取りまでの支援体制はできている。</p>	<p>重度化や終末期のケアに対する指針を整備しており、利用開始時に本人及び家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で主治医より病状が伝えられ、家族及び関係者は話し合いを繰り返しながら可能な限り希望に沿った支援に取り組んでおり、これまで1件の看取りを実施している。協力医療機関が実施する重度化や急変時対応の研修にも参加して、職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルがあり、同じ敷地内にある保育園にはAEDを設置し、急変事にも速やかに対応できるように備えている。毎年、救急蘇生法の研修を職員全員が参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間想定を含む火災訓練を年2回実施するほか、避難経路の確認等、自主訓練も実施している。隣接する保育園の園庭が避難場所指定であるため、保育園の職員や地域の参加も得られる。消火訓練、119番通報と緊急連絡先同じ同時通報、AED講習会実施。備蓄として飲料水や食料を準備している。</p>	<p>年2回夜間想定を含む通報、消火、避難等の災害訓練を、保育所や住民の協力を得て実施し、併せて、連絡網や避難経路の確認やAED講習、消火器等の点検等の自主訓練（年4回以上）を行っている。日頃からマスコミによる災害情報をもとに意見交換を行って、防災への認識を共有している。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、懐中電灯、ラジオ等の整備や飲料水や食料品、介護用品を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い、声掛けには十分に配慮して行うようにしている。利用者と接する目線を下げ、ゆっくりした口調で話しかけ、自己決定を大切にさり気ないケアを心がけている。	利用者の尊厳やプライバシー確保については、スタッフ会議で研修やケアの振り返り、意見交換を行って適切なケアの実践に努めている。更衣や排泄、入浴時のケアに際しては人格や羞恥心に特に配慮しており、居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護に配慮した構造で、利用者に関する台帳等もスタッフルームで適切に管理している。日々のケアに際しては、利用者の残存機能や自己決定を尊重して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の見守りの中、安易に答えを提供することはせず、自らが考え、答え、自らの思いを出せるような雰囲気作るように心がけ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のそれぞれの時間を大切にし、穏やかな生活の実現のため取り組んでいる。職員の都合にならないように、ご本人の気持ちを尊重し、出来る限り個別性のある支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	その日に、身につける衣服を一緒に選んだり、希望により美容院より出張カットに訪問してもらい、パーマや髪染めの場合は美容院へお連れしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士に利用者の食べたい物を取り入れ献立を立ててもらっている。利用者も調理の下ごしらえや下膳など一連の工程に参加してもらっている。外食については花見は手作り弁当持参で、スーパーへ買い物やラーメン流し、回転すし屋等出掛けるなど食べる楽しみを大切にしている。	法人の栄養士が、疾病に伴う食事制限や形態、栄養バランス、嗜好等に配慮した献立を作成し、食材の下ごしらえや片付け等は利用者も一緒に楽しみながら調理している。季節の行事食や誕生日の希望食、手作りのおやつ、外食、流しラーメン、園庭でのバーベキュー、家族との会食など食事が楽しみなものとなるよう工夫しており、利用者毎に食事や水分の摂取状況を把握し、口腔ケアもプランに沿って支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食後にチェック記入、不足分は栄養補助食品で、水分補給は10時、15時、入浴後水分補給している。常に麦茶、ポカリスエットを常備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時、個々の能力を把握し必要に応じて援助し、見守り自立の方を含め、口腔内の観察に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心に配慮し、個々の身体能力に応じて支援して、排泄能力、排泄パターンを把握し、できる限り、日中はトイレで排泄できるよう支援している。夜間は2名はポータブルトイレを使用している。	利用者の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を支援しており、身体状況に合わせた介護用品やケアの方法を介護計画に反映させて改善に努めている。便秘予防については、植物繊維の多い食材や水分摂取、運動量に配慮し、主治医とも連携して改善を図っている。トイレ誘導や衣服交換時のケアや言葉づかいは、利用者の羞恥心やプライバシーに特に配慮して取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の便秘予防に、日々の食事の中に食物繊維を含む食材に、水分を多く摂る機会を作り、水分量を確保。散歩や手足を動かす運動を取り入れている。状態によっては主治医の指示にて下剤を服用していただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援している	衛生面、身体の清潔保持のため週3回入浴支援している。入浴日でない日は、足浴、清拭支援をしている。入浴拒否されたときはタイミングを見計らって声掛け、無理強いしないようにしている。自立している利用者様は、見守りで入浴を楽しんでもらっている。	基本週3回の入浴を、利用者の心身の状態に配慮しながら支援している。利用者の好みの温度や時間などは柔軟に対応し、ゆっくりと気持ち良く楽しめるように取り組んでおり、入浴後は牛乳による水分の補給や皮膚疾患の処置を支援している。入浴を渋る利用者には無理強いしないで時間や順番、声掛け等を工夫して、利用者自身で意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠ができるように、散歩や体操など、日中の活動を促し生活リズムの確保に努めている。室内においては適温維持し寝具等の清潔保持、調節の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のファイルに情報を整理し、いつでも確認できるようにしている。服薬時はしっかりと確認して誤薬のないように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活暦、生活の中でできること、できないことを把握し自らが行えるように支援している。季節の行事を大切に提供している。得意分野で能力を発揮して喜びや楽しみを見出す支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の要望に応じて、近隣へ散歩や買い物と一緒に出かける機会を作っている。歩行困難なご利用者様は車椅子で、屋外への支援、地域での行事参加や家族との外出など連絡して計画している。	外出に対する利用者の意向を、日頃の支援の中で把握し、健康状態や天候等に配慮しながら、園周辺の散歩やドライブ、買い物、一時帰宅、墓参等の外出を家族と協力して取り組んでいる。地域行事への参加や季節の花見、保育園児や小学生との交流、果物狩り、一泊の温泉旅行など、ホーム全体での外出も積極的に実施してリフレッシュを図っており、利用者の楽しみとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者からの要望や希望に沿って買い物される際には必要な金額をその時に渡すようにしている。必要に応じて使用できるように一定額は預かっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者からの希望にあわせて本人が電話したり、ご家族からの電話を受けご本人に取り次いでいる。いつでも手紙が出せるように切手を用意、投函時もスタッフが同行支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気の中で、自然な光や音を取り入れ、心地よく過ごせるように努めている。居間や廊下に花や装飾品、写真の掲示を行い、また、隣接する保育園から園児の元気な声が聞こえ、居心地良く過ごせる空間づくりに努めている。	ホーム全体がバリアフリーの構造で、廊下やリビング等は余裕のあるスペースが確保されている。随所に利用者の写真や作品、歌詞が掲示され、清掃や空調、異臭、感染症予防にも十分配慮して、和やかで清潔感のある空間となっている。リビングの一角にキッチンがあり、テーブルセットやテレビ、ソファ等が利用者の動線や利便性に配慮して設置され畳部屋も設けてある。利用者は調理の音や匂い、保育園児の歌や遊戯、歓声等に触れながら、好みの場所で平穩に過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>気の合う利用者同士で会話を楽しまれている方、自室でベッドで横になっている方、懐メロを口ずさんでいる方、椅子に座ってにこやかに笑っている方、廊下で日向ぼっこの方等、安心して生活を楽しまれている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご本人にとって安心して居心地の良い居室になるよう、馴染みの物、写真、テーブル等配置、行動スペースを確保し、安全を配慮して生活して頂くように工夫している。</p>	<p>居室はフローリングに掃出し窓の仕様で、ベッドやエアコン、タンス、空気清浄器が備えてあり、利用者の意向を確認しながら整理整頓を支援している。利用者は家庭同様に落ち着いて暮らせるように、テレビや家族写真、寝具、遺影、小物等を自由に持ち込み、また、自身の作品も飾って、その人らしい和やかな雰囲気のある居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>利用者の安全を考え、自立支援を目的として、廊下やトイレ内、脱衣所、浴室の手すりやグリップの安定など、必要に応じて居室内の手すりやベッドの介助カバーの設置している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない